

学会誌の偏在化問題と投稿および査読システムの 社会的評価に関する対応策

清水 みゆき¹

Uneven Distribution of the Journal, the Peer Review System and Post Countermeasures to Social Evaluation

Miyuki SHIMIZU (Nihon University)

Currently, the only medium in which research results can be posted in this society is paper; there are three issues annually. However, the number of posts from members is concentrated overwhelmingly in the Special Issue, leading to a shrinking circulation in both English and Japanese. The impact of this situation on, say, inability to acquire research grant, makes the very survival of the Society uncertain; major changes are needed. As a workaround, the Journal should be utilized as a place to announce research for members and employ a unified application of peer review for it. In this paper, I will raise points about future reforms.

Key words : reform of journal, uneven distribution, peer review system, electronic, internationalization

1. 学会誌の投稿状況の推移

日本農業経済学会 (以下, 本学会) で研究成果を投稿できる媒体は紙媒体のみで, 3 誌ある。現在, この会誌編集業務上, 何が最も問題であるかというところ、すでに昨年の農大大会での会長講演にもあった通り、『農業経済研究』および JJRE への論文投稿数の減少・停滞と, それと比較した場合の『日本農業経済学会論文集』(以下『論文集』)への投稿数の増加, すなわち偏在化, ということである。このことは以前から指摘されていたことであり, 研究ノートの廃止等の対応によっても, その傾向は改善されなかった。それでも 2005 年頃までは年間の投稿数はなんとか二桁に届くこともあった。ところがこの偏在化の傾向は 2006 年から 2012 年度でより強まり, 投稿数は一桁代で推移してきたのである。1980 年代も視野に入れた長期的な投稿の傾向は, 昨年の会長講演 (『農業経済研究』第 85 巻 2 号収録) に示されているので, ここでは今

期の編集委員会で関わった部分を以下に示した。会員からの投稿数は『論文集』に圧倒的に偏在しており, 2011 年度が 106 本, 2012 年度は 98 本, 対する『農業経済研究』は 2011 年の 7 本, JJRE は 2012 年の 1 本を底として, 依然低迷状況にあることがわかる (第 1 表)。

2. 偏在の要因

こうした偏在化の要因には, 投稿から掲載までの時間が長過ぎる, 査読が厳し過ぎる, とりわけ若手研究者が業績を急ぐあまり, フルペーパーの論文を書くよりも, 枚数制限のある『論文集』の方が, 掲載時期が明確であることも含めて投稿しやすく, かつ業績を積み重ねるのに手っ取り早い, などいくつか挙げられる。以下では, これらの指摘の実態について, 検討してみたい。

まず, 『論文集』は圧倒的に共著によるものが多く, 直近の 2013 年度では和文として掲載された論文 52 本のうち, 31 本が共著で 21 本が単著である。これは①大学院生とその指導教員, もしくは②公表を必要とする共同研究の場合が想定され, 前者の場合, 大学院生

¹ 日本大学
miyuki@brs.nihon-u.ac.jp

第1表 学会誌の投稿, 掲載数

	農業経済研究		JJRE		論文集	
	投稿数	採択数	投稿数	採択数	投稿数	採択数
2011	7	3	2	2	98	64
2012	9	4	1	1	106	65
2013	14	—	1	—	98	64

第2表

本来想定している論文審査工程と期間
事前チェック, 査読依頼1カ月 + 査読期間1カ月 + 審査等0.5~1カ月 + 手直し3カ月 + 事前チェック, 査読依頼1カ月 + 査読期間1カ月 + 審査等0.5から1カ月 = 約6・7カ月を想定
現在の期間
事前チェック, 査読依頼1カ月 + 査読期間2カ月 + 審査等0.5カ月 + 手直し3~8カ月 + 事前チェック, 査読依頼1カ月 + 査読期間2カ月 + 審査等0.5カ月 + 編集委員会チェック1カ月 + 手直し1カ月 = 約18カ月

が学位論文の提出や, ポスト獲得のための業績作りを急ぐために, 査読期間が限られている『論文集』に投稿する傾向がある。また後者の場合も, 公表を急ぐことから本誌(『農業経済研究』・JJRE)と比較して査読期間が限られている『論文集』への投稿が優先されていると考えられる。

では, 本誌の査読期間はなぜ長いのか, 本誌の査読システムは投稿受け付け後, 査読者が決まってからの査読期間はほぼ1カ月としている。しかし, 実際のところ, その期間を守って査読結果が提出されるケースは決して多くない。再三督促をかけて提出してもらうことすらある。また, 査読結果によって編集委員会が審査結果を出し, その審査結果を執筆者に送り, 改訂を依頼しても, その改訂作業に何カ月もかかり, こちらも原則改訂作業が3カ月という期間はほとんど守られていない。査読も改訂も時間がかかり, 結果として, 2年越しに論文を審査し続ける場合すらあり, 現在では平均して投稿から掲載までの期間は1年半ほどとなっている(第2表)。

3. 改革の要点

こうした状況にあって, 昨年からは, 編集委員会としては以下のような改革を行いつつある。

まず第1に, 本誌の査読項目を大幅に改定した。長くなるが重要な点なので末尾に新旧対照表を示した(附表)。項目が増えているので, 査読者にとっては従来よりも手間がかかるように見えるが, 実際に教員が学生に論文指導をする際に言っていることをそのまま

項目として起こしている, と考えていただきたい。査読者は, この項目に沿って査読しながら引っ掛かった点をコメントとして書き込んでいけば, その論文の満たされていない点を指摘していることになるので, それ以上書き込む手間は省ける。逆に, 投稿者にとっては, 指導教員に論文指導をされているように, どこをどのように改善すれば良いのかが理解しやすいため, 原稿の改訂時間の短縮が期待される。査読を依頼されたら, 是非ゼミ生や院生の論文指導を想定して書き込んでいっていただきたいと考えている。また関連して, この方式を採用してから1年近く経つが, 編集委員会から執筆者に指摘事項を伝えやすくなっている。要するに, 査読者が何を言いたいのか, ということがわかりやすくなったのである。すでにJJREとは共通化しており, 今後この査読項目を『論文集』とも共有することで, 3誌統一の査読項目とする予定である。

さらに従来, 『論文集』は本誌の「別冊」という位置付けであった。このことがJ-STAGE掲載の申請の際に本誌の論文数の少なさと同時に, 『論文集』はいわゆる学術論文の体裁も整えられておらず, どういう性格のものかわかりづらい, という指摘を受ける要因でもあった。そこで, 『論文集』は本誌とは別の会誌として性格づけるため, 本誌のフルペーパー掲載に対し, 短報性と速報性を持つ会誌とした。2014年の発刊予定号から, 投稿ページ数は6ページまでとなったことはその結果である。さらに, そうした性格付けをしたうえで, 英文サマリー, キーワード, コレスポンドイングオーサー, 連絡先の表記などによって, いわ

ゆる論文としての体裁を整えることとした。

その他、本誌編集委員は論文集編集委員も兼ねていることから、編集委員の増員、学会報告から『論文集』への投稿までのマニュアルの作成など、会員の方々の投稿環境の改善を行うとともに、企画委員会による若手を中心とした大会企画と連動させながら、学会誌が研究発表のツールとして活性化され、研究水準の向上に結実できるように改革を推進してきた。

4. 今後の方向性

こうした偏在化解消に向けた改革に加えて、投稿全体の活性化のためには、さらに今後、電子化、国際化対応を進めていく必要がある。近年の業績評価は電子化を前提としたインパクト・ファクターを重視する傾向にあるが、当学会の会誌は『農業経済研究』のみがようやくJ-STAGEへの申請が認められ、発刊2年経過分から電子化されるようになった。またJJREについては、昨年からAgEcon Searchに一部掲載されるようになったがJ-STAGEの申請は認められていない。引き続きこれらの申請およびそのための体制整備を行う必要がある。

また、3誌統一の審査項目としたことにより、その

内容の検討はさらに必要である。投稿しやすさ、査読のしやすさなど、今後も詰めていく必要はあるが、それらは改革にかかわらず、継続して行われていくべき業務の1つであると言える。それ以外に委員会としての組織的な改革点としては、

- ・改革継続のための委員長を選出方法の改正と役員改選との時期をずらす
- ・論文集改革担当（副編集委員長）の設置
- ・編集委員を6名から8名へ増員
- ・編集業務に関するマニュアルの見直し

などを進めてきた。こうした改革の延長上で最も問題なのは、『論文集』への投稿のうち、英文論文はすでに英文本誌のJJREへの掲載が決まり、2013年度についてその通りに発刊されたが、和文論文については本誌と『論文集』が存続している、という齟齬の解消である。本誌と『論文集』では大学や組織によって、その評価が異なっており、英文であれば本誌なみの評価、和文であれば『論文集』なみの評価、という会員サービスの不平等は至急解消されるべきであると考えている。会員の研究活動活性化のために広く知恵を拝借したい。

要旨：現在、農業経済学会で研究成果を投稿できる媒体は紙媒体のみで、3誌ある。しかし、会員からの投稿数は『論文集』に圧倒的に偏在しており、英文、和文ともに本誌が低迷状況にある。この状況が及ぼす影響は、科研費の不採択のみでなく、学会の存続が疑われる事態と言え、大きな改革が求められている。会員にとって研究を発表する場としての会誌活性化の対応策として、査読項目の統一化、それによる査読システムの効率化を図ってきた。本稿では、今後の改革点について提起する。

キーワード：学会誌改革、偏在化、査読システム、電子化、国際化

附表 『農業経済研究』 審査規程の新旧対照表

審査基準を JJRE と一本化し、審査項目も変更、さらに論文集の査読項目とも整合性を図り、3誌共通とする。

現行	改正後
<p>(査読の項目)</p> <p>査読者は、査読を依頼された原稿に対して、以下の項目から評価を行う。</p> <p>A. 論文の構成および論旨の明確性</p> <p>A-1. 研究課題の背景、意義、必要性が明瞭かつ説得的に述べられているか。</p> <p>a. 妥当, b. 多少の修正が必要, c. 大幅な修正が必要, d. きわめて不十分</p> <p>A-2. 研究課題からみて、論文の構成、論述内容および引用文献の取捨選択は適切に行われているか。</p> <p>a. 妥当, b. 多少の修正が必要, c. 大幅な修正が必要, d. きわめて不十分</p> <p>A-3. データおよび方法論・手法の選択および適用方法は妥当か。</p> <p>a. 妥当, b. 多少の修正が必要, c. 大幅な修正が必要, d. きわめて不十分</p> <p>A-4. 得られた結論には、新しい知見や有用な情報が含まれているか。</p> <p>a. 妥当, b. 多少の修正が必要, c. 大幅な修正が必要, d. きわめて不十分</p> <p>B. 内容の新規性・独創性および問題点・疑問点</p> <p>B-1. 新規性・独創性が認められる項目（複数可）</p> <p>a. 問題意識、研究の視点、課題の設定, b. データおよび方法論・手法, c. 論旨の展開、結論</p> <p>B-2. 問題点・疑問点が認められる項目（複数可）</p> <p>a. 問題意識、研究の視点、課題の設定, b. データおよび方法論・手法, c. 論旨の展開、結論</p> <p>C. 文章表現および体裁（修正が必要な項目：複数可）</p> <p>a. 表題, b. 文章表現, c. 章別構成（各章の内容、分量）, d. 図表の内容・量, e. 論文全体の体裁</p>	<p>(査読の項目)</p> <p>査読者は、査読を依頼された原稿に対して、以下の項目から評価を行う（JJRE 同一項目）。</p> <p>Manuscripts must have an evaluation '4' in every evaluation item for acceptance, i.e., <u>A</u> in the recommendation.</p> <p>1) 審査は「審査継続のための条件」と「受理のための条件」の二つについて行います。</p> <p>Only manuscripts evaluated '3' or better in the Evaluation items No. 1 through No. 8 are allowed to revise (either <u>B</u> or <u>C</u> in the Recommendation) while manuscripts evaluated '2' or less are not allowed for revision, i.e., rejected.</p> <p>2) 原稿が審査に進むためには、No. 1～8 の「審査継続のための条件」のいずれの項目とも 3 以上の評価が必要で、評価が 2 以下の項目があれば、以後の査読は行わない（却下）。</p> <p>To be accepted, revised manuscripts must be evaluated '4' in every Evaluation item No. 1 through No. 13.</p> <p>3) 受理されるためには、No. 1～8 の「審査継続のための条件」および No. 9 以後の「受理のための条件」いずれの項目とも、4 の評価を得ることが必要である。</p> <p>「審査継続のための条件」</p> <p>Manuscripts must have an evaluation '3' or '4' before revision. A reviewer must provide reasons for evaluation '3' or less.</p> <p>投稿原稿の修正には、以下の No. 1～8 の条件すべてで 3 以上の評価を得ることが必要である。「3」、「2」、「1」の評価の場合には、そのように判定された理由を述べてください。</p> <p>Evaluation Items 審査項目</p> <p>1. Is this a new or original contribution in terms of perspectives, or methodology, or findings? (For book-reviews this does not apply.)</p> <p>問題意識や視点、方法論、知見のいずれかについて新規性ないしオリジナリティが認められるか（レビュー論文は該当しない）</p> <p>Evaluation 判定：(Yes) 該当 4 3 2 1 (No) 該当せず</p> <p>Comment：</p> <p>2. Did the manuscript adequately review existing research papers on its topic within word limitation?</p> <p>先行研究のレビューを限られた紙幅の中で適切に行っているか</p> <p>Evaluation 判定：(Yes) 該当 4 3 2 1 (No) 該当せず</p> <p>Comment：</p>

	<p>3. Is the statement of objectives of the manuscript adequate in view of the study subject? 論文の目的は、適切に設定されているか Evaluation 判定：(Yes) 該当 4 3 2 1 (No) 該当せず Comment :</p> <p>4. Are the interpretations and conclusions sound, justified by the data and consistent with the objectives? 分析結果の解釈や結論は、データに裏付けられており、分析目的とも整合的で、かつ妥当性を有しているか Evaluation 判定：(Yes) 該当 4 3 2 1 (No) 該当せず Comment :</p> <p>5. Is the manuscript well organized? 論文の構成や節・項の見出しは適切か Evaluation 判定：(Yes) 該当 4 3 2 1 (No) 該当せず Comment :</p> <p>6. Does the manuscript have sufficient impact and useful information on Japanese or global relevance for publication in this journal? 論文は、刊行に値する十分なインパクトを有し、国内外にとって有用な情報となり得ているか Evaluation 判定：(Yes) 該当 4 3 2 1 (No) 該当せず Comment :</p> <p>7. Is the manuscript in line with the author's guideline including the length? 論文は枚数制限内に収まっており、投稿要領に準じて記述されているか Evaluation 判定：(Yes) 該当 4 3 2 1 (No) 該当せず Comment :</p> <p>8. Is the quality of the language satisfactory? 容易に理解可能な正しい言語が用いられているか Evaluation 判定：(Yes) 該当 4 3 2 1 (No) 該当せず Comment :</p> <p>To be accepted, revised manuscripts must be evaluated '4' in every Evaluation item No. 1 through No. 13. 「受理のための条件」</p> <p>9. Does the title of the manuscript clearly reflect its contents? 論文タイトルは適切に内容を反映しているか Evaluation 判定：(Yes) 該当 4 3 2 1 (No) 該当せず Comment :</p>
--	---

<p>(審査結果) 査読者は、査読を依頼された原稿の査読結果を、以下の5段階で行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 原稿のまま掲載可 (字句の修正等、微細な修正を含む) 2. 要加筆・修正 (修正稿に再度目を通すことは不要) 3. 要加筆・修正 (修正稿に再度目を通す必要がある) 4. リライトの後、再検討 5. 却下 	<p>10. Is the abstract sufficiently informative, especially when it is read by itself? アブストラクト (要旨) には、適切に内容が要約されており、それ単独でも内容を十分説明可能なものとなっているか Evaluation 判定: (Yes) 該当 4 3 2 1 (No) 該当せず Comment :</p> <p>11. Are appropriate keywords provided? 適切なキーワードが選定されているか Evaluation 判定: (Yes) 該当 4 3 2 1 (No) 該当せず Comment :</p> <p>12. Is the methodology or a modeling technique adequately adopted and correctly described in sufficient detail? 分析方法、モデル等が提示されている場合は、それらが適切に選択され、十分説明されているか Evaluation 判定: (Yes) 該当 4 3 2 1 (No) 該当せず Comment :</p> <p>13. Are figures and tables adequately provided and are the captions appropriate and well described? すべての図表が過不足なく用意されているか、またデータの示し方やそのタイトル、注、出典等は適切に表記されているか Evaluation 判定: (Yes) 該当 4 3 2 1 (No) 該当せず Comment :</p> <p>(審査結果) 査読者は、査読を依頼された原稿の査読結果を、以下の4段階で行う。</p> <p>Recommendation: 判定結果</p> <ol style="list-style-type: none"> A. Accept as it is. 修正なしで受理 B. Request minor revisions (but no more reviewer's checking). 要修正 (審査員の再審査必要なし) C. Request major revisions (reviewer's judgment suspended). 大幅な修正 (修正後再審査が必要) D. Reject. 本学会誌には掲載不可 (却下) <p>Overall Evaluation General Comments 全体評価コメント</p>
--	---